

3月24日(木)～4月22日(金) 満月セレクト

— 今回のセレクトター ご紹介 —

Music Selector : 天辰 保文



天辰 保文

1949年福岡県生まれ。音楽評論家。音楽雑誌の編集を経て1976年独立、それ以降、新聞や雑誌を通じてロックを中心とする評論活動を行っている。レコードやCDのライナーノーツも多数手掛ける。近年は、トークイベントへの出演も少なくない。著書に「ゴールドラッシュのあとで」、「音が聞こえる」、「ロックの歴史～スーパースターの時代」等がある。

今回のセレクトCD

- 

Lily-O / Sam Amidon (Nonesuch / 7559-79545-1)
サム・アミドンの面白さは、時間の壁をスリリと潜り抜け、古い歌(200年前の歌に手を加えたものここにはありません)を現代に持ち帰ってくるところです。それも、彼のバンジョーやビル・フリゼールのギターなどを絡ませ、フォークからジャズまでいろんな言語で大胆かつ自由に甦らせるのです。穏やかに降り注ぐ光の中で、未来が遊んでいる姿がみえるかもしれません。
- 

The Haden Triplets / The Haden Triplets (Third Man / TMR209)
1971年10月11日、ニューヨークで3人の女の子が誕生しました。いわゆる三つ子です。父親はジャズの伝説的なベース奏者、チャーリー・ヘイデン。幼い頃から、音楽と一緒に暮らしてきた彼女たちが成長して組んだのが、その名もヘイデン・トリプレッツというわけです。ライ・クーダーのプロデュースで、古いカントリーの数々を現代風に楽しませてくれています。
- 

Monterey / The Milk Carton Kids (Anti / 87408-2)
行方不明になった子供たちを探し出す手掛かりにと、米国では牛乳パックに子供たちの写真を印刷することがありますが、その子供たちのことをミルク・カートン・キッズと呼ぶそうです。そんな名前の男性二人組は、現代のサイモン&ガーファンクルとも言われ、アコースティック・ギターの深い音色と清廉なハーモニーが、静かに新しい季節を運んできてくれそうです。
- 

Ladies Of The Canyon / Joni Mitchell (Reprise / WPCR 14095)
ポップ・ミュージックも、その昔、男性優先の世界とされていました。そんな古い常識に風穴をあけた一人が、ジョニ・ミッチェルでした。だからこそ、男女や世代にかかわらず多くの人に尊敬され続けてきました。芸術が香り立つようなカリフォルニアのローレル・キャニオンで、自由に、繊細に暮らしながら女性の生き方を描いた作品です。それも、鋭く澄みきった言葉と歌です。
- 

Musings Of A Creek Dipper / Victoria Williams (Atlantic / AMCY 2536)
米国ルイジアナ生まれのカリフォルニア育ち。その歌声は一度耳にしたら忘れられないほど独創的なシンガー・ソングライターですが、多発性硬化症という難病を抱えながらも歌い続ける勇気あふれる女性としても知られています。同じような境遇の人たちへのチャリティ活動にも余念がありません。自然と触れあい、人間と触れあい、歌に触れあう喜びを感じさせてくれます。